平成２６年度　次世代地域リーダー塾　第１回　概要

日　　時	平成２６年１０月２５日（土）１３：３０～１６：３０
場　　所	羽島市文化センター　２０１会議室
内　　容	１　挨拶（１３：３０～１３：３５） 岐阜県環境生活政策課地域コミュニティ室長　河田　哲也 ２　パネルディスカッション（１３：３５～１５：４５） ○コーディネーター 鈴木　　誠（愛知大学地域政策学部　教授・コミュニティ政策学会　理事） ○パネリスト 大島 光利（ＮＰＯ法人奥矢作森林塾　理事長） 佐藤 良子（東京都立川市大山自治会　会長） 松島 祥久（多治見自警団　団長・㈱藤本組　代表取締役） （１）活動紹介 パネリスト３名による活動紹介 （２）ディスカッション 「新たな地域活動を創出する地域リーダーとは」 ～女性や若者の活用、ＮＰＯとの協働、企業との連携～ ＜リーダー論＞ 地域の課題へ先導的にアプローチできる次世代地域リーダーを育てるためには等 ＜組織論＞ 地域の協力者を巻き込む組織づくりをするためには等 【鈴木】**今回のテーマは「次世代地域リーダー塾」ということですが、次世代とはどの世代を意味していると思われるか。** 【大島】次にバトンタッチするのは４０代の方ですので、４０代だと思います。 【佐藤】５０代の方が次世代と思っています。しかし、人生７掛けですから私もまだまだこれからです。 【松島】私が５０代ですから、真っ只中という感じはしますが、これから青年会議所の後輩３０代にも声をかけて行きたいと考えています。 【鈴木】皆さんのお話を伺っていると、３０代～５０代の方が次世代だと想定されます。 【鈴木】**次世代を想定しながら、リーダーの皆さんが一緒に活動する中で困ったことや、悩み事はありますか。** 【大島】ＮＰＯなので資金不足が一番の悩み。資金をつくることが大変。３０～４０代の方に仕事をしてもらうには、無償ボランティアでは長続きしません。 【佐藤】役員会の時間ですが、若い方は仕事をしていますので、若い方に時間を合わせることに苦労しました。皆さんにアンケートをとって時間を決めました。また、役員になることのメリットを第一に考えて、楽しく活動できるように工夫しています。 【松島】地域経済を担っている経営者や従業員の方が１１０社集まっている組織なので、８班の班長が自主的に活動できるようにすることや役割分担をしっかりしていくことが今後の課題です。

【鈴木】**リーダー論を語るうえで、よくリーダーとなり得る特別な人がいるから、活動が成り立っている。いないところはできないという話になりがちです。皆さんが考える地域活動のリーダーの資質とは。**

【大島】私の地域は、過疎化が進みこのままだと地域が消滅してしまうのではないかという危機感を持って活動しています。私の場合は、２４時間３６５日この活動に全力をあげている状態です。熱意が大事だと考えます。

【佐藤】誰もがリーダー、役員となれるように、安全・安心して活動ができるように、１６００世帯全員に傷害保険をかけている。リーダーは常に命を守るという意識を持っていなければならない。また、リーダーは地域を知り、人を知らなければいけない。人材は褒めて育てる。あいさつは名前を呼んでするを心掛けています。

【松島】自分に与えられた使命だと思って、目の前にある地域の課題に向かって一生懸命に努力することが大事だと感じています。経営者と従業員が地域の課題を共有して一緒に活動していることが、楽しく活動できるコツだと思います。

【鈴木】**リーダーをバトンタッチする際に、その方を支援する周りの方への働きかけや配慮や気配り等はありますか。**

【大島】できるだけ早い段階から、事業が停滞しないように、スムーズに移行できるように地域の皆さんに周知するように心掛けています。現在は私自身がバックアップするような体制をとっています。移住された方の意見も十分に聞いて、恵那市の地域基本計画等に反映しています。

【佐藤】役員になっても楽に役をこなせるように工夫をしています。役員２１０人体制でリーダーのサポートをする人をつけています。高齢者も障がいを持った方も誰でも役ができるようにチームを組んでいます。役員の任期は１年です。

【松島】活動が９年続きましたので、警察との連携は密になりました。市や報道機関との関係もできあがりました。今後は自治会との連携が課題です。

（３）質疑応答

Q. 皆さんに質問です。皆さんの活動の支えになっている家族の方はどの程度関わってみえますか。また、女性のリーダーの佐藤さんに質問ですが、役員２１０人の男女の比率はいかがでしょうか。また次の会長さんは男性でしょうか女性でしょうか。

【大島】家庭のことは妻に任せっきりなので感謝しています。

【佐藤】家族にはすごく感謝しています。食事の準備等支えてくれています。
役員の２１０人は男性半分、女性半分です。また、３分の１は２０代、３０代の若い方です。
次の会長は、周りの方がしっかりしているので、女性でも男性でも良いと思っています。次の会長は男性５０代の方です。

【松島】妻に感謝しています。仕事も活動もすべてにおいて支えになってくれています。

	Q．地域リーダーになるための覚悟と、耳の痛い話はどのように吸収しているかをお聞きしたい。 【大島】耳の痛い話は、自分の中で吸収して外には出さないようにしている。リーダーになるための覚悟は、１０年間防災に関わることで、山林が荒れているから災害がおきるということを学ぶなかで、自分がやらなきゃ誰がやると覚悟を決めました。 【佐藤】会長になった時に人には優しく、自分には厳しくを言い聞かせてきました。防災についても勉強し、外に非常事態を知らせ、助けを求めるインターフォンを採用してもらいました。新しい風をいれて、防災に対する意識を高める工夫をしました。耳の痛い話は、ご意見ありがとうございますと言って、感謝の言葉をかける工夫をしています。 【松島】何か問題が起きた時に、目の前の課題に対して、課題解決のために必死に努力する責任の取り方が重要と考えている。耳の痛い話は、８班の班長会で話し合うようにしています。話し合いで最終的な判断は団長がします。 【鈴木】**組織論という観点で、活動のマンネリ化を防ぐための工夫を教えていただきたい。** 【大島】若い人たちに計画を立ててもらうようにしています。新しい風を入れることがマンネリ化を防ぐことにつながっています。若い人には失敗を恐れずにチャレンジすることが大事だと伝えています。 【佐藤】マンネリ化を防ぐためには、自治会組織は工夫とアイディアが勝負です。いかに興味を持ってもらい、参加してもらうかを常に考えています。高齢者の方々には、「創年のたまり場」を提供しており６００人以上が集います。いろいろなサークルが出来上がり、年に１度発表会をしています。 祭りや運動会は役員が忙しくならないように、スタッフを募集して工夫しています。今年の運動会はスタッフ１４８人で、１５８０人が参加しました。いろいろな大学とも連携しています。 高齢者の方々には、仕事をしてもらってお金を稼いでもらっています。企業の下請けをして１５０万円を超える収入を得ます。優秀な人材の人材バンクを組織する工夫もしています。 【松島】団内活動の優秀団員の表彰式をしたり、ニュースを発行したりして工夫しています。他にも、被災地支援の活動等、１年に１つ新しいことをしています。 **Q．大山自治会の加入率１００％はとてもうらやましいです。１年に１回の活動も断られることがあります。どのようにお誘いすればよいかアドバイスをお願いします。** 【佐藤】大山自治会では、新しい方がみえたら必ずお手紙を差し上げ、お茶とお茶菓子を準備して歓迎会をしています。私からは、無理なくできることをやっていただけませんかと、その時にやっていただけなくても必ず声をかけるようにしています。すると、皆さんが楽しく活動しているので自然に人が集まるようになっています。 自治会の運営資金は、補助金も少ないので、自分たちで駐車場や公園の管理をして委託を受けてお金を稼いでいます。要らなくなった着物を活用して小物を作って売るというビジネスもしている。皆さん楽しんでやってみえます。 **Q.大山自治会の組織図はどうなっていますか。** 【佐藤】別添のとおり　（出典：命を守る東京都立川市の自治会　廣済堂新書）

【鈴木】最後に、佐藤さんが大山自治会の活動方針は「都会に田舎をつくること」です、と私に教えていただきました。田舎という言葉には、深い人間関係、絆で結ばれるという別の意味も含まれていると感じます。良い関係を作りあげ、長く楽しく過ごしていく。を目指していきたいとおっしゃいました。
岐阜県も地域リーダーが必要だということで、衰退が危惧される地域を育てる担い手をどう育んでいくかを、皆さんのご経験から最後にお聞きしてまとめとしたいと思います。

【大島】次世代のリーダーを育成するということは、特に田舎の地域は大変なので、長い時間をかけて住民の皆さんの協力を得てやっていくことが一番大事だと考えています。

【佐藤】一番大事なことは、困らないようにするためにはどうするかということだと思います。私が会長になって一番困ったのは、葬儀を出す際に亡くなられた方の財産の問題や、写真がないということです。私は終焉ノートというのを作成し、元気なうちに書いていただくようにお願いしました。一冊３００円で４５００部売れました。ですから、困っていることを発見をして、困らないようにしていく。というのが大事だと思います。また、リーダーの方には、元気、陽気、根気、強気、やる気が大事ですと申し上げて最後の言葉とさせていただきます。

【松島】自分たちのまちは自分たちで考えて自分たちで良くする、という考え方がこれからの地域コミュニティを支えていく人材には必要だと考えます。私たちは産業を支えていくという仕事もありますので、その活動が住みよい街になり、人も増えるということに繋がっていくと思います。

【鈴木】本日のパネラーは、ＮＰＯ、自治会、企業それぞれの代表者としての立場から、今までの経験を通してお話をいただきました。改めてどの団体も活動をするには、それを支える地域が大事なものであるし、誰もが過ごしやすく、世代を越えてより良いものになっていけば、その中で人材も育って、組織も活性化されていくというお話もありました。佐藤さんから元気、陽気、根気、強気、やる気という素敵なプレゼントもいただきましたので、これからの岐阜県の次世代地域リーダー養成のキーワードとしていきたいと思います。本日はありがとうございました。